

小学校 高 学年＜ 6－5＞

学 年	6年	時 間	総合的な学習の時間 「防災マップ作りと地図上の避難訓練（D I G）」	時 期	適時	時 数	全5時間
目 標	地域の様子（危険箇所や避難経路、避難場所）を調べて校区・地域の防災マップを作成し、疑似体験（地図上の避難訓練）を行うことにより、実際の災害（地震・風水害・土砂災害）時にとっさの行動ができるようにする。						
資 料・準 備	校区の拡大地図（各グループで分割）、地震のときの被害のようす・調査のポイント資料（ワークシート）・被災者の体験をきく（消防庁「チャレンジ防災48」）、鳥取地震・鳥取県西部地震のときの被害写真、各色のシール、各色油性ペン						

展開（第1時）

	学習活動と内容	指導上の留意点（支援○）
導 入	1 災害の実際を知り、校区地域での避難について学習することを教える。	○実際の災害（地震・風水害・土砂災害）時にとっさの行動がとれるには、地域の様子を知る必要があることを認識させる。
展 開	2 災害（地震・風水害・土砂災害）のときの被害のようす（写真）を見たり、被災者の体験談を読んだりして発災時のイメージをつかみ、話しあう。 3 グループ構成を決め、ワークシート、校区の拡大地図（各グループで分割）を配布し、校区防災探検の計画を立てる。	○全体学習とし、全体で話しあうが、学級に実態や人数によっては、学習班での学習も考えられる。 ○自分の通学路を含むグループ構成で、地域の様子（危険箇所や避難経路・避難可能場所等）を調べることを確認する。
ま と め	4 校外学習のきまりや調べることを各自でまとめる。	○探検後、マップをもとにワークショップを行うことを意識させておく。

（第2時・第3時）

- 校区の地図をもとに、地域ごとにグループになって地図作成資料（チェック項目）ワークシートをもとに防災探検を行う。

（第4時）

- 校区防災探検で調べたこと（災害時危険箇所、避難可能場所等）をもとに、グループ毎に自分の地域の地図を囲み、災害時に危険な場所、避難できる場所等を話し合い、書き込んだりシールを貼ったりして**防災マップを作成**する。

展開（第5時）→進め方は 「■ワークショップ：地図上の避難訓練（D I G）」を参照

	学習活動と内容	主な発問・指示(◇)	指導上の留意点	支援(○)
導 入	1	第1時のように災害（地震・風水害・土砂災害）のときの被害のようす（写真）を見る。	○学習を効果的なものにするため写真等を見せイメージさせる。	
展 開	2	作成した <b>防災マップ</b> をもとにして、地図上の避難訓練(D I G)＜ワークショップ＞を行う。 ◇登校時の発災を想定し、 <b>地図上でどう避難するのかを話しあいましょう。2・3カ所で災害に遭った場合を考えてみましょう。</b>	○グループ毎に作成した自分の地域の地図(防災マップ)を囲み、登校時の数カ所を想定して、どのようにどこに避難すればよいか話しあわせる。	
ま と め	3	自宅に一人にいるときに地震が起きたらどうするかを話しあう。		
ま と め	4	日頃の備えや地域の課題を話しあう。	○危険箇所や避難場所等を日頃から考えたり知ったりしておく必要があることを実感させたい。	

関連する 教科・領域等	
協力団体	